

「学生の制作する音楽録音作品コンテスト」受賞作品制作レポート

レイトショーの後に咲く花

日本工学院専門学校 音響芸術科 1年

横田 創平

1. はじめに

この度は優秀音楽作品賞という大変貴重な賞をいただき誠にありがとうございます。関係者の方々や、ご指導頂きました先生方、楽曲を提供してくれた親友の中臺 悠幸に、改めてお礼申し上げます。ありがとうございました。

今回私がレコーディングとミックスを担当しました中臺 悠幸の「レイトショーの後に咲く花」の音作りにおける工夫点や、特に力を入れた点についてご説明させていただきます。

2. 制作意図とその背景

私が感じたこの曲のイメージは、やわらかい霧のような繊細さと、その内にある中臺の葛藤や叫びなどの強い感情でした。

繊細さを表現する為に、コンプレッサーの使用は曲全体を通して控えめにしました。特に D メロの Vocal ではコンプレッサーを一切使用せず、広いダイナミックレンジを用いることで、中臺の感情の揺れを表現しようと思いました。その時に目指した音が、レコーディング・エンジニアの Steve Fitzmaurice さんが制作された「”The Thrill of It All”-Sam Smith」や「”初恋”-宇多田ヒカル」でした。私は Steve さんの創る、表現力豊かで、音像が大きく、存在感のある Vocal の音に強く感銘を受けておりました、「こんなカッコいい音を作りたい!」と明確に目標設定できたことが今作のモチベーションを高めるきっかけとなりました。

また、上述しました「強い感情」を表現するために、リードギターには UAD の Neve1073 を使用することで、ザラザラとした攻撃的なキャラクターを付加しようと試みました。この時のイメージにも目標の音があり、それは Shibuya O-EAST で聴いたリーガルリリーさんのギター・ソロでした。暗いライブハウスで、繊細そうな見かけの女の子とはギャップのある、悲鳴のようなディストーションギターがとても印象的で、この音色が中臺の世界観にも適していると思い、その音を目指し制作しました。

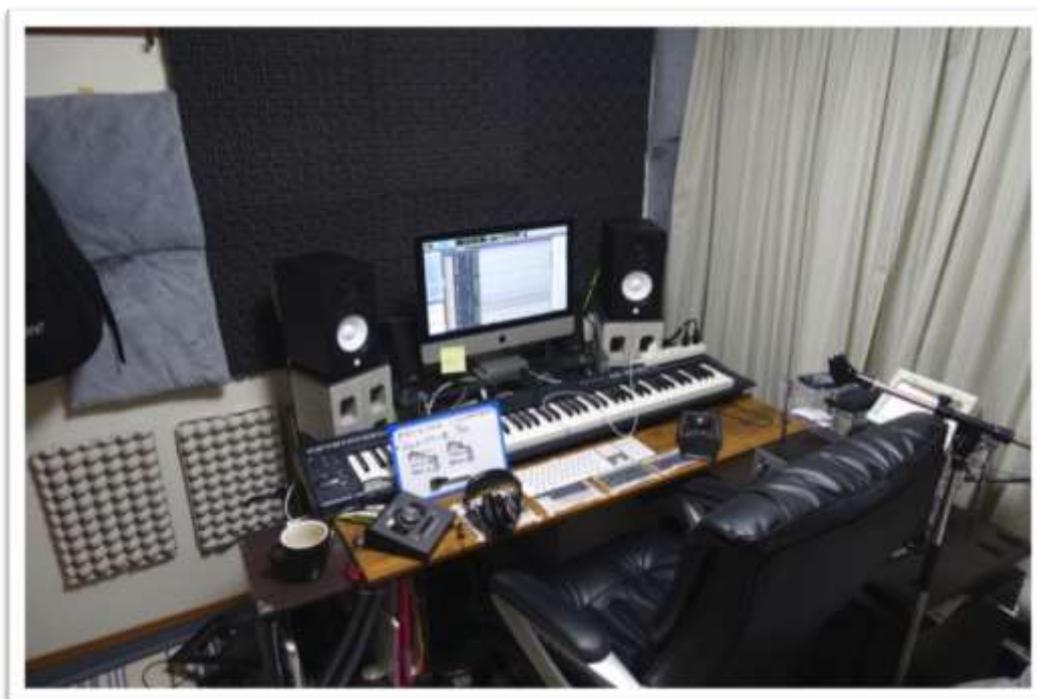
3. 作業環境

この曲のレコーディングとミックスは、全て実家の自室で行いました。



<レコーディング環境↑>

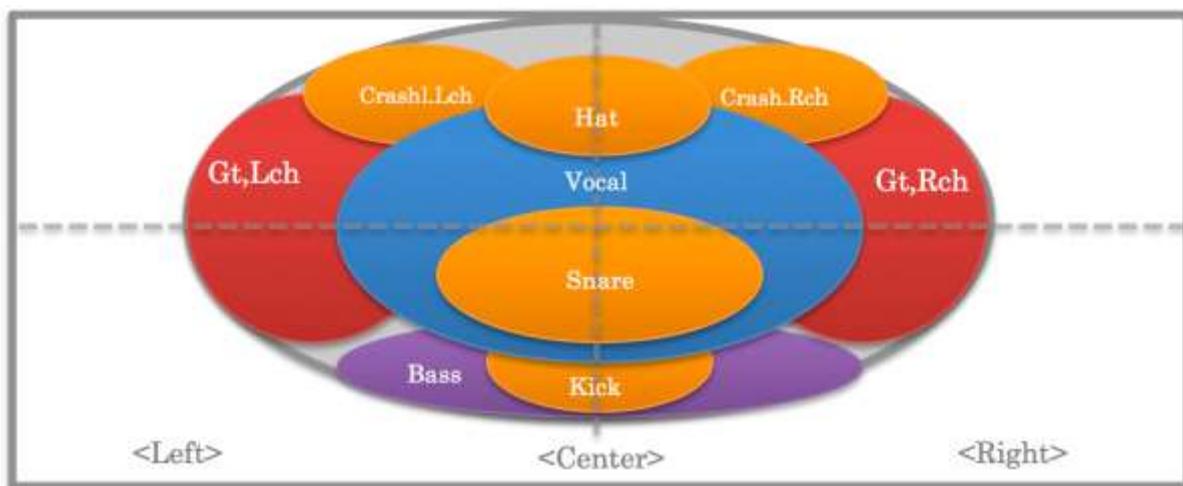
まず、Vocal レコーディングにおける工夫は、押入れ内の壁に吸音材代わりの卵パックを敷き詰め、そこにマイクを設置したことにあります。この目的は、意図しない音の反響を防ぎ、デッドな収音を行うことでした。しかし、卵パックが評判ほど音を吸わなかったために、押入れ内の狭い空間内で乱雑に反射した音が位相のズレなどを起こし、”細い上に抜けない”扱いづらい音となってしまったように思います。この結果から、現在では押入れセッティングは廃止してしまいましたが、ルームチューニングの重要性を発見できたとても良いきっかけとなりました。



<ミックス環境↑>

また、ミックス作業での工夫は、ヘッドホンではなく、スピーカーでミックスした点にあります。この理由は、これまでヘッドホンでミックスした音源を、いざ他の再生機器で聴いてみると、音が再生機器の特性に非常に影響されやすく、「このイヤホンで聴けば良い音だけど、このスピーカーでは最悪な音」といった具合に、制作した音が狙いの音から大きく逸れてしまうことが多くあったためです。この原因は、ヘッドホンのダイナミックレンジと周波数レンジが狭い、バイフォニックのため Lch Rch 相互の交わりが無い、イヤパッドの微妙な装着方法の違いによる音色の変化、などによる情報量の不足や、不正確なモニタリングにあると考えました。このことから、今回からはヘッドホンではなく、スピーカーによるミックスを中心に行いました。そして、スピーカーによる適切な音場再生を実現するために、スピーカー裏の壁、正面、天井に吸音材を貼り、定在波を抑制させました。また、スピーカースタンドにはコンクリートブロック、インシュレーターには画鋲と十円玉を使用することで、スピーカーの振動を机に共鳴させないよう工夫しました。この、リスニング環境をスピーカーに変更し、ルームチューニングを行ったことが、制作音源の音質の改善に大きく貢献したと思います。

4. 音像定位について



この楽曲の制作にあたりイメージした音像定位の図です。Vocal の占める割合が大きく、Electric Guitar の Lch、Rch に挟まれるようなイメージで制作しました。Electric Bass や Kick を図のように、どっしりと下に定位させたかったのですが、実際はもっと軽く浮ついてしまったように思います。現在では、ベース・レゾナンス・ツールを使用することで音像を落とすようにしています。

5. 使用機材

録音機材：

・ Pop Guard : STEDMAN PROSCREEN 101

- ・ Microphone : NEUMANN TLM103
- ・ Audio Interface : UNIVERSAL AUDIO Apollo twin mkii
- ・ PC : iMac(21.5-inch,Late 2012)
- ・ DAW : Pro Tools(Ver,12.5.2)

モニター環境 :

- ・ Audio Interface : UNIVERSAL AUDIO Apollo twin mkii
- ・ Monitor Speaker : YAMAHA HS5
- ・ Monitor Headphone : SONY MDR-CD900ST

使用プラグイン(エフェクター) :

演奏パート	トラック名	使用プラグイン
Electric Bass	Bass	UAD Ampeg SVT3Pro
		WAVES SSLChannel
Drums	OverHead	WAVES SSLChannel
		UAD UA 1176LN Legacy
	Room	WAVES SSLChannel
		UAD UA 1176LN Legacy
		Lo-Fi
	Hat	WAVES SSLChannel
		UAD UA 1176LN Legacy
	Snare	UAD UA 1176LN Legacy
		UAD Pultec EQP-1A Legacy
	Kick	UAD UA 1176LN Legacy
		UAD Pultec EQP-1A Legacy
	Electric Guitar	Gt.Arp.Lch
UAD Fairchild 670		
WAVES SSLChannel		
Gt.Arp.Rch		UAD Neve 1073
		UAD Pultec EQP-1A Legacy
Gt.Rhysme.L		WAVES SSLChannel
Gt.mute.R		WAVES SSLChannel
Gt.Lead		WAVES RCompressor
		UAD Neve 1073
		UAD Pultec EQP-1A Legacy
Gt.Harmonics		WAVES Doubler
		WAVES SSLChannel

Vocal	Vo.Amero	WAVES SSLChannel
		UAD Teletronix LA-2A Legacy
	Vo.Cmero	DeEsser
		UAD Pultec EQP-1A Legacy
	Vo.Sabi	UAD Antares Auto-Tune Realtime
		UAD UA 1176LN Legacy
		UAD Pultec EQP-1A Legacy
	Chorus	UAD UA 1176LN Legacy
		Ozone Imager
		UAD Pultec EQP-1A Legacy
REQ 2		
Aux	Mono.Delay	WAVES H-Delay
	Reverb	UAD Pure Plate

6. 最後に

今回、日本オーディオ協会様の録音コンテストに参加させていただくにあたり、音作りに対し論理的に考える視点を勉強させていただくことができました。音楽は、直感的に感じた魅力が全てだと思いますが、その魅力を支えるためにはやはり技術が必要なのだと実感しました。今回の経験を活かし、これからも音と真剣に向き合い、アーティストの作成した音源のポテンシャルを最大限引き出せるような音作りを目指し、試行錯誤していきたいと思います。

■執筆者プロフィール



横田 創平

1994年生、神奈川県出身。

高校生の頃、iPadを使い作曲や好きなバンドの曲をコピーして遊んでいる時に、自身の音源とプロの音源との大きなレベルの差に疑問を感じ、音響芸術に興味を持つようになる。大学在学中のスタジオインターンを機にレコーディングの道を志すようになるが、スタジオ業界からの採用を得られずITメーカーに就職。しかしエンジニアへの夢を捨てきれず、専門学校へ入学する。